

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
自然の事物・現象の性質や規則性について理解できるように、観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録すること。	既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、実験、観察を通して得られた結果を予想や仮説と比べながら考察すること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	・課題に対して予想を立て、調べたことから考察し、まとめる理科の基本的な学習の流れが、まだ身に付いていない。ア イ	・理科の学習の流れに沿って、ノートや記録の整理の仕方を指導し、繰り返し取り組むことで定着を図る。	・常時	・観察・実験ごとに、予想を立て、調べた結果と対比させることにより、考察を書くことができるようになった。
第4学年	・観察・実験・記録をするのに、時間がかかる。ア ・観察・実験で得られる結果から、予想や仮説と比べ、自分の考えをまとめていくことが難しい児童が多い。イ	・十分な時間をとり、学習技能の定着を図る。ア ・具体的な経験をする機会を増やし、経験したものと結び付けて課題を提示し、予想や仮説、自分の考えをもちやすくする。イ	・毎単元 ・毎単元	・実験に対する準備や望む姿勢が良くなった児童が増えた。 ・予想することができるようになったが、既習の内容や生活経験と結び付けて、理由付けすることは難しい。 ・自分の言葉で結果やまとめが書ける児童が少ない。
第5学年	・表などを使い、分かりやすく実験結果をまとめていくことが苦手である。ア ・実験結果から、自分の考えを言葉にまとめていくことが苦手である。イ	・教科書を活用しながら、表の書き方や結果のまとめ方を学ぶ機会を設定する。ア ・根拠を明確にして予想を立てさせ、予想との比較から分かることを書くようにする。友達の意見を共有することから、書き方を意識させる。イ	・毎単元 ・毎単元	・表を書く機会を増やした結果、目的に合わせて表を作ることができるようになった。 ・実験結果を関連付けながら、考察することができるようになってきた。
第6学年	・問題解決に向けて、見通しをもって実験を進めたり、結果を整理して記録したりすることが苦手である。ア ・既習事項を生かして予想を立てたり、結果を関連付けて思考したりすることが難しい。イ	・予想を立て、実験方法を考える際に、何を調べるための実験であるか、板書等で明確にする。ア ・予想を立てる際に、既習事項や生活経験を基にした根拠を書かせる。何を書くのか、何を考えるのか明確にする。ア	・毎単元 ・毎単元	・何を調べるための実験か、目立つように板書することで、自分で見通しをもって実験できるようになった。 ・予想を立てる前に、これまでの学習や関わりのある生活経験を振り返らせることで、予想の根拠とすることができた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
3・4年 実験や観察の結果をロイロノートに残して、考察について提出箱で共有する。【重点：個別】 5年 実験の様子や観察結果を写真や動画で保存し、考察の場面で繰り返し結果を確認しながら話し合う活動を設定する。【重点：個別・協働】 6年 実験の様子や結果を記録し、ロイロノートで共有することで、多面的に考えられるようにするとともに、自分の考えをもつことが困難な児童の助けとする。【重点：個別・協働】	3・4年 導入の中で生活経験を思い出させたり、学習が終わった後に日常生活に立ち返らせて考えさせたりする。 5年 何を調べるために実験をするのかを明確にし、常に意識できるようにして実験や観察に取り組ませる。 6年 小学校での学習のつながりと、中学校への接続を意識して取り組むようにする。